



株式会社セブン&アイ・ホールディングス
2013年2月期 決算説明会

2013年4月5日

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

2013年2月期 実績

連結決算概要

増収増益を達成

	13/2期実績			
	金額	前期比	前期増減	計画差異
グループ売上*	85,076億円	105.7%	+4,594億円	▲223億円
営業収益	49,916億円	104.3%	+2,052億円	▲383億円
営業利益	2,956億円	101.2%	+36億円	▲123億円
当期純利益	1,380億円	106.3%	+82億円	▲49億円

*グループ売上:セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における
チェーン全店売上高を含めた数値

 1

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

事業セグメント別営業利益

コンビニエンスストア事業は増益も、スーパーストア事業と百貨店事業が減益

	13/2期実績			
	金額	前期比	前期増減	計画差異
連結営業利益	2,956億円	101.2%	+36億円	▲123億円
コンビニエンスストア	2,217億円	103.3%	+71億円	▲98億円
スーパーストア	254億円	78.6%	▲69億円	▲3億円
百貨店	80億円	80.7%	▲19億円	▲37億円
フードサービス	7億円	—	+8億円	▲3億円
金融関連	374億円	110.8%	+36億円	+18億円
その他	38億円	168.7%	+15億円	+2億円

 2

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

主要事業会社の営業利益

セブン-イレブン・ジャパンと7-Eleven, Inc.は過去最高益、イトーヨーカ堂は計画を上回る

	13/2期実績			
	金額	前期比	前期増減	計画差異
セブン-イレブン・ジャパン	1,867億円	102.0%	+36億円	▲82億円
7-Eleven, Inc.	381億円	116.6%	+54億円	▲18億円
イトーヨーカ堂	90億円	85.4%	▲15億円	+20億円
ヨークベニマル(LF*込み)	155億円	84.5%	▲28億円	+2億円
そごう・西武	100億円	90.0%	▲11億円	▲24億円

*LF・・・ライフフーズの略称(主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売している子会社)



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

特別損益の状況

特別損失は大幅減

	13/2期実績	前期増減	12/2期実績
特別利益	21億円	▲82億円	104億円
特別損失	352億円	▲375億円	727億円
災害損失および資産除去債務	—	▲482億円	482億円
減損損失	183億円	+38億円	144億円
百貨店事業	77億円	+57億円	20億円
その他	105億円	▲18億円	124億円
固定資産廃棄損	66億円	+11億円	54億円
その他	102億円	+56億円	46億円
華糖ヨーカ堂のれん減損	32億円	+32億円	—
百貨店2店舗の閉店損失引当繰入	19億円	+19億円	—



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

4

2014年2月期 計画

連結業績計画

特殊要因を除いたベースでも、増収増益を計画

	14/2期計画			特記事項 (+▲は損益への影響)
	金額	前期比	前期増減	
グループ売上*	95,600億円	112.4%	+10,523億円	<ul style="list-style-type: none"> SEJ:+2,145億円 SEI:+7,968億円 (内、為替影響:約+3,500億円)
営業収益	56,400億円	113.0%	+6,483億円	<ul style="list-style-type: none"> 為替影響:約+2,370億円
営業利益	3,400億円	115.0%	+443億円	<ul style="list-style-type: none"> 減価償却方法の変更による影響:+248億円 為替影響:約+65億円
当期純利益	1,700億円	123.1%	+319億円	

PL為替換算レート: 13/2期実績 79.81円⇒14/2期予想 92.00円(12.19円円安)

* グループ売上:セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.におけるチェーン全店売上高を含めた数値



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

連結業績計画：事業セグメント別営業利益

全てのセグメントで増益を計画

	14/2期計画			
	金額	前期比	前期増減	減価償却方法変更による影響額
連結営業利益	3,400億円	115.0%	+443億円	+248億円
コンビニエンスストア	2,490億円	112.3%	+272億円	+110億円
スーパーストア	396億円	155.3%	+141億円	+96億円
百貨店	89億円	110.8%	+8億円	+2億円
フードサービス	14億円	194.0%	+6億円	+2億円
金融関連	414億円	110.6%	+39億円	+30億円
その他	40億円	102.9%	+1億円	+7億円

事業セグメント別設備投資計画

コンビニエンスストア事業を中心とした設備投資を継続

	14/2期計画		
	金額	前期比	前期増減
連結設備投資	3,400億円	101.7%	+57億円
コンビニエンスストア	2,040億円	95.2%	▲102億円
スーパーストア	690億円	127.2%	+147億円
百貨店	160億円	87.6%	▲22億円
フードサービス	12億円	85.3%	▲2億円
金融関連	430億円	105.0%	+20億円
その他	68億円	157.0%	+24億円
全社	-	-	▲7億円

主要事業会社の設備投資計画

	14/2期計画			主な投資計画
	金額	前期比	前期増減	
連結設備投資	3,400億円	101.7%	+57億円	
セブン-イレブン・ジャパン	1,150億円	102.2%	+24億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 出店: 1,500店舗 ● コーヒーマシン等営業力強化に向けた既存店投資
7-Eleven, Inc. (含、のれん投資)	870億円	84.5% (56.0%)	▲160億円 (▲684億円)	<ul style="list-style-type: none"> ● 出店: 600店舗 (前期差▲478店舗) ● 前期M&A店舗のSEI化に伴う改装投資
イトーヨーカ堂	446億円	145.9%	+140億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 出店: アリオ3店舗 ● 15/2期の出店に伴う先行投資を含む
ヨークベニマル	145億円	148.3%	+47億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 出店: 14店舗(前期差:+3店舗) ● ドミナント深耕に向けた出店強化

【ご参考】

主要事業会社の決算概況

電気料の実績および予想

● 連結および主要事業会社の電気料

	13/2期実績		14/2期予想	
	金額	前期増減	金額	前期増減
セブン・イレブン・ジャパン	342億円	+50億円	/	
イトーヨーカ堂	192億円	+16億円		
ヨークベニマル	45億円	+5億円		
そごう・西武	68億円	+5億円		
その他	269億円	+14億円		
連結	917億円	+92億円		

値上げによる増加	+76億円
LED等による削減	▲42億円
新店等に伴う増加	+58億円

+60億円
▲35億円
+47億円

コンビニエンスストア事業：実績①

セブン-イレブン・ジャパン

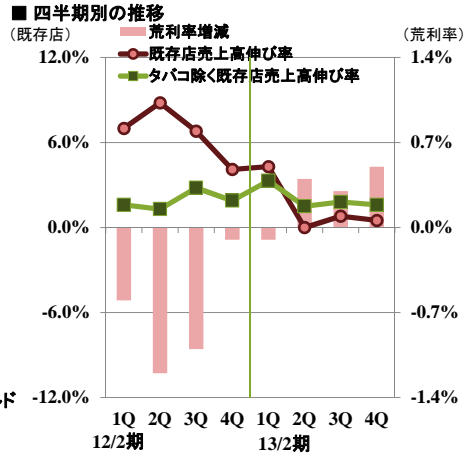


既存店投資の効果もあり売上、荒利率ともに伸長し、過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	1,867億円	102.0% +36億円
既存店売上高伸び率	+1.3%	
商品荒利率	30.0%	+0.3%

概況

- 過去最高の1,354店舗の出店と純増数(+1,067店舗)
- 既存店売上は、政策的に強化しているデイリー商品や『セブンプレミアム』の好調により伸長
- 販管費は店舗数の増加に加え、加盟店支援強化とチルドケース等の導入に伴い、前期に対して11.9%増加



コンビニエンスストア事業：実績②

7-Eleven, Inc.

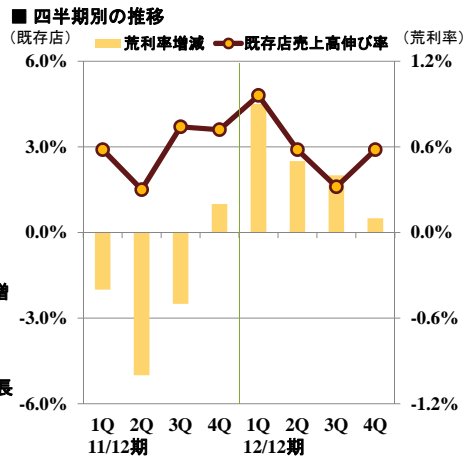


主力商品の販売好調と荒利率改善により増益となり、過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	381億円	116.6% +54億円
米国内既存店商品売上高伸び率(ドルベース)	+2.9%	
商品荒利率	35.2%	+0.5%

概況

- 事業取得等を含め過去最高の1,078店舗の出店と純増数(+969店舗)
- 商品売上と荒利率は、ノンアルコール飲料やファストフード、PB商品『セブンセレクト』などが牽引して高伸長
- ガソリンは単価と販売量の伸長により荒利額が増加



コンビニエンスストア事業：14/2期の計画

セブン-イレブン・ジャパン

営業利益:2,050億円(前期比109.8% 前期差+182億円)

	計画[前期比]	備考
チェーン全店売上高	37,230億円[106.1%]	既存店の改善と新店による伸長
既存店売上高伸び率	+0.5%	内、タバコ影響: ▲1.2%
商品荒利率	30.5%[+0.5%]	内、タバコ影響: +0.3%
店舗数	16,222店[+1,150店]	出店1,500店、閉店350店

7-Eleven, Inc.

営業利益:497億円(前期比130.2% 前期差+115億円)

	計画[前期比]	備考
チェーン全店売上高	26,490億円[143.0%]	既存店の改善とガソリン売上の伸長
米国内既存店商品売上高伸び率	+2.5%	営業力強化と改装効果
商品荒利率	35.3%[+0.1%]	ファストフードとPB商品『セブンセレクト』の強化
店舗数	8,533店[+415店]	出店600店 閉店185店

スーパーストア事業：実績①

イトーヨーカ堂

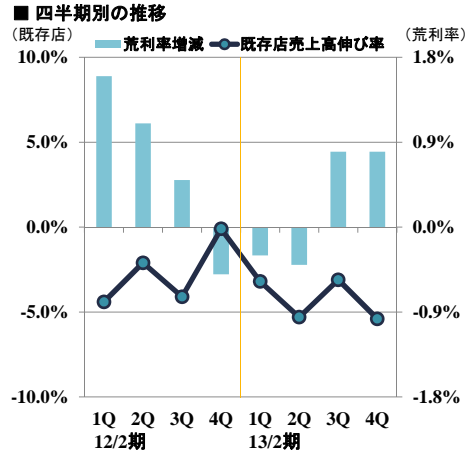


主に荒利率の改善により下期が増益に転じ、計画に対して20億円のプラス

	実績	前期比
営業利益	90億円	85.4% ▲15億円
既存店売上高伸び率	▲4.3%	
商品荒利率	29.9%	+0.2%

概況

- 売上は、天候要因や震災反動によりマイナスだったものの、衣料を中心に荒利率が改善
- 販管費は、電気料が増加したものの、人件費や販促費、地代家賃を中心に削減
- 営業利益は下期のみでは前期比185%(+37億円)の増益となり、通期の計画に対しては20億円のプラス



スーパーストア事業：実績②

ヨークベニマル

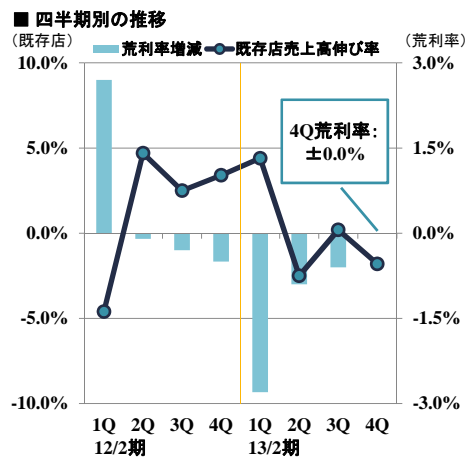


前年震災の反動はあったものの、計画通りの営業利益を達成

	実績	前期比
営業利益	118億円	79.3% ▲31億円
既存店売上高伸び率	±0.0%	
商品荒利率	26.0%	▲1.0%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	155億円	84.5% ▲28億円

概況

- 既存店売上は、一昨年比で+1.5%
- 荒利率は、前年震災後の需要増加に伴い大幅改善したことの反動によりマイナス
- ライフフーズ込みの営業利益は、一昨年比で135.0% (+40億円)となり、計画に対してもプラス



*ライフフーズは、ヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売している子会社

スーパーストア事業： 14/2期の計画

イトーヨーカ堂

営業利益:168億円(前期比186.5% 前期差+77億円)

	計画[前期比]	備考
売上高	12,950億円[99.4%]	—
既存店売上高伸び率	▲2.8%	引き続き厳しい環境を見込む
商品荒利率	30.2%[+0.3%]	衣料と食品を中心とした改善を見込む
店舗数	177店[+3店]	出店6店(アリオ3店 他3店)、閉店3店

ヨークベニマル

営業利益:143億円(前期比120.6% 前期差+24億円)

※ライフフーズ込み営業利益:188億円(前期比120.8% 前期差+32億円)

	計画[前期比]	備考
売上高	3,800億円[106.1%]	既存店の伸長と新店の寄与
既存店売上高伸び率	+1.4%	平日強化および生鮮食品強化による差別化
商品荒利率	26.2%[+0.2%]	生鮮食品の管理とPB商品の販売強化
店舗数	196店[+12店]	出店14店*、閉店1店

*ヨークベニマルの出店14店舗のうち、1店舗は震災による長期休業後の新装開店



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

百貨店事業：実績

そごう・西武

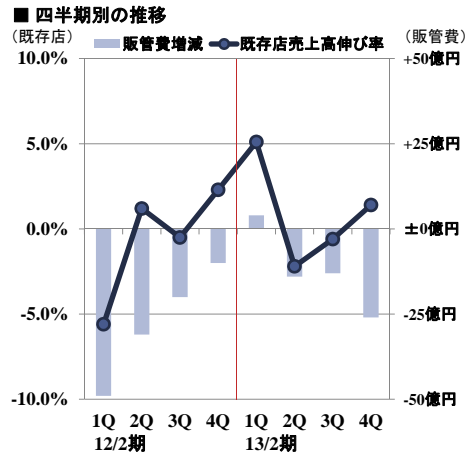


主に天候要因による既存店売上と荒利率のマイナスにより減益

	実績	前期比
営業利益	100億円	90.0% ▲11億円
既存店売上高伸び率	+0.9%	
商品荒利率	24.9%	▲0.2%

概況

- 既存店売上は、1Qにおける前年震災の反動と4Qの改善によりプラス
- 荒利率は衣料品苦戦の影響によりマイナス
- 前年、震災による営業休止期間中の固定費の特別損失への振替は13億円
- 13年1月に西武沼津店とそごう呉店を閉鎖



百貨店事業：14/2期の計画

そごう・西武

営業利益:120億円 (前期比119.5% 前期差+19億円)

	計画[前期比]	備考
売上高	8,000億円[100.2%]	既存店はプラスも前年2店舗閉鎖の影響により微増
既存店売上高伸び率	+2.3%	—
商品荒利率	25.2%[+0.3%]	自主商品の拡大による衣料品の強化
店舗数	24店[±0店]	—

本資料には、当社の本資料発表日時点における計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。